

## 子育てひろば研修セミナー 岩手開催 子育てが楽しくなる！ひろばから始まる、地域の未来づくり

東北地方でも、地域の特徴を活かした子育てひろばが展開されており、子育て事情が刻々と変化を遂げるなか、地域に根ざした子育て支援拠点事業があります。行政・民間など、さまざまな分野での取組事例を学び、ひろば担当者の自己研鑽を図り、子育て支援の質を高めて、地域に必要とされる子育て支援を共に考える場として、子育てひろば研修セミナーの開催に至りました。

岩手県内はもちろんのこと、隣接する東北3県からの参加も多く、子育てひろばの意義と役割を学ぶとともに、3つの分科会では、各テーマに沿った実践事例や話題提供などがなされ、ひろばスタッフが日頃の活動を振り返り、見識を深める機会となりました。

- ◆ 開催日 平成20年12月6日（土）10:00～16:00
- ◆ 会場 アイーナ いわて県民情報交流センター
- ◆ 主催 財団法人こども未来財団・NPO法人子育てひろば全国連絡協議会
- ◆ 後援 厚生労働省・（社福）全国社会福祉協議会・岩手県・盛岡市・矢巾町  
（株）岩手日報社・（株）エフエム岩手・（社福）岩手県社会福祉協議会
- ◆ 協力 「子育てひろば研修セミナー岩手開催」実行委員会  
NPO法人矢巾ゆりかご

### 《参加総人数》

144名（男性：21名、女性：123名）

内訳 行政：31名、NPO任意団体：59名、他団体・企業：20名、その他：34名

### 開会・主催者挨拶

主催者挨拶 財団法人こども未来財団 武田久恵さん

主催地歓迎挨拶 岩手県知事 達増拓也さん

激励挨拶 盛岡市長 谷藤裕明さん



## 「地域子育て支援拠点事業の概要と展望」 厚生労働省少子化対策企画室長 朝川知昭さん

### プログラム1 基調報告



働き続けることと、結婚して子どもを持つことを選択させられる現在、仕事と生活の調和の実現や、子育て支援策の再構築、児童福祉法の見直しなど、「子どもと家族を応援する日本」を重点戦略ポイントとして、少子化対策のために国がどのような取り組みをしていくのかを詳しく説明。「政府が、より子育て支援に対して取り組もうとしている

姿勢が具体的に分かった」「つどいの広場の担当として非常に参考になりました。今後の業務に生かしていきたいと思います。」などの参加者からの声がありました。

## 「東北の子育てひろばは何をするところ？」 武蔵大学人文学部教授 武田信子さん

### プログラム2 基調講演

東北にあった資料を作成しての講演をしていただき、なぜ地域にひろばが必要なのかを参加者に問い合わせられていました。行政・支援者・利用者各々が東北という自然豊かな地域性を考え、自分たちが目指す子育て支援をどのようにしていくのかを考えることが重要なのではないかと話されました。また、海外の子育て支援や過疎地域がどのようにして活性化していったかなどの例を挙げたり、参加者にとって興味深い講演となりました。



### プログラム3 分科会

#### ＜第1分科会＞ 「地域に根ざすひろばとは？」地域にあった子育てひろばの役割

コーディネーター	NPO 法人いわて子育てネット	両川いづみさん
助言者	武蔵大学人文学部教授	武田信子さん
事例報告者	奥州市健康福祉部子ども・家庭課 子育ち支援グループ「モモ」 NPO 法人メリーゴーランド	平澤真由美さん 浜田陽子さん 佐々木久美子さん



平澤さん、浜田さん、佐々木さん

平澤さんは、商業施設に広場があるため、買い物ついでや、市外の親子での利用、祖父母が連れてくるケースも多いとの報告をされました。浜田さんは、多くの大人との関わりのある子どもは幸せだという話に共感したことや、母親が子どもと上手く付き合うためのスキルアップが必要と話してくれました。佐々木さんは、自主

事業で有料のひろばを開設し、子育てをしたくなるひろばづくりの報告をされました。

ひろばの運営費や、行政の担当者の現場視察、子連れボランティア、ひろばでのポジションの話で、会場との意見交換がされました。両川さんが「地方の子育てで、宝といえる部分は」と、事例報告者に問い合わせると、祖父母による伝承遊びの広がりを期待していることや、青森は家庭でのお手伝いも盛んで生き生きとした目をしているという話がでした。

助言者である武田さんからは、たったひとりを支援することも大切で、支援者が自分の役割を客観的に捉えることも必要であると、アドバイスをしてくださいました。



両川さん、武田さん

### ＜第2分科会＞

#### 「ひろばスタッフのスキルアップとは？」 ～ 利用者の声から考える子育てひろばづくり～

コーディネーター 二戸市健康福祉部子育て支援グループ  
話題提供 NPO法人やまがた育児サークルランド  
子育てサークル連絡会ゆーりん

玉懸ひとみさん  
野口比呂美さん  
本間歩美さん



本間さん 野口さん



グループワーク



野口さんは、空きビルを利用したひろばの工夫や、託児付きの子育て講座を展開するなど、母親が利用しやすいひろばづくりについて話をされました。本間さんは、公民館を利用してサークル活動をしていて、施設利用料の上昇や、老人クラブが活動が活発で押され気味であるという話題にふれられました。

その後4つに分かれて、「支援者として取り組むこと」についてグループワークで意見交換がされました。各グループの報告では、笑顔でじっくり話を聞くという姿勢で利用者を迎えること、支援者から話しかけて居やすい雰囲気づくりを心がける、母親抱える問題を支援者が察知できるようなスキルアップが必要、支援者だけの対応にも限界があり専門機関へ委ねるという意見を、玉懸さんがまとめられました。

<第3分科会>

「行政と民間のネットワークづくり」  
～ 地域住民が参画できるひろばを考えます ～

コーディネーター NPO法人びーのびーの  
助言者 厚生労働省少子化企画室  
事例報告 盛岡市保健福祉部児童福祉課兼次世代育成支援事務局  
NPO法人いちのせき子育てネット  
NPO法人矢巾ゆりかご

奥山千鶴子さん  
朝川知昭さん  
杉田博信さん  
岩渕豊子さん  
半澤久枝さん

つどいのひろば事業が自分の地域に合い、様々な世代との関わりを次世代にも伝えいくことは、行政はもちろん住民主導で進めることもあるのでは、という奥山さんの話で事例報告へと進みました。



半澤さん

岩渕さん

杉田さん

杉田さんは、盛岡市でのひろば型KOKKOで展開する事業を紹介。中心市街地の活性化や様々な分野の参加協働による人のつながりで、学生ボランティアを通して未来の子育て世代との交流もあると話をされました。岩渕さんは、担当課が県から市へ移行したことから、行政との協働の難しさを話されました。施設には、預けたい方より、人とのつながりを求める利用者が多い状況を伝えられました。半澤さんは、今年7月から開設した指定管理受託の児童館で展開するひろばについて話し、小学生と時間帯が重なる時は注意も必要だが、親子と小学生のふれあいの効果は想像以上であると話されました。

朝川さんからは、児童館型の理想を実践されているようだと感想を述べられました。盛岡市では、市の主導で周知のきっかけを作っているのが、新鮮で良かったと感想を述べられました。

会場との意見交換で、児童館型では長期休みの受け入れをどのようにするのか、就学児童の対応が優先されるので難しさを感じるなどの意見や、岩渕さんへ行政との関わり方をアドバイスする場面もありました。

また、幼稚園を使ったひろばを朝川さんへ質問される行政関係者もあり、ヒントを得ていた様子でした。

最後に事例報告者から一言。杉田さんは、ひろば事業自体の必要性を浸透させることが大切だと話されました。岩渕さんは、週5日の開設を市に働きかけているので、成功させていきたいと前向きな取り組みを述べられました。半澤さんは、拠点を活かして、各世代で利用できるように、しっかりと運営していきたいと話して終了をむかえました。



手前 奥山さん

## プログラム4 全体会

### 各分科会報告およびまとめ

<第1分科会報告>NPO法人いわて子育てネット	両川いづみさん
<第2分科会報告>二戸市健康福祉部子育て支援グループ	玉懸ひとみさん
<第3分科会報告>NPO法人びーのびーの	奥山千鶴子さん
<総括> NPO法人矢巾ゆりかご	阿部智衛子さん



両川さん

両川さんの第1分科会は、子育ての当事者が運営することで、パワフルな活動が紹介され、自分たちの可能・不可能を把握し、仕組みを知って活動することが大切で、自分たちが育てたひろばを次世代に引き継いでいきたいとの報告がなされました。大勢の子ども達と接するのはもちろんのこと、一人とゆっくり接して話す事が、本当は大切で子育てひろばの考え方につながるなど、武田さんの助言内容を紹介してくださいました。

玉懸さんの第2分科会では、ひろばの利用目的を「仲間づくり」「イベント目的」「自分達の存在の確認の意味」とあげ、スタッフの姿勢として「公平」「他の親子とのきっかけづくり」「解決できないことは、専門機関へ頼み抱え込まない」との、報告がなされました。



玉懸さん



奥山さん

奥山さんの第3分科会では、子育て支援センター（小規模型指定施設）が平成21年度までの経過措置となっているためセンター型やひろば型に移行することになるが、その際、場の確保が課題となる。児童館型は長期休みの対応課題や児童館職員との連携プレーが大切。住民が街のために試行錯誤しながら働きかけていくことが大切であると話されました。さらに、行政がすべき必要な支援、NPO法人が実施することの意味を確立し、行政のみならず企業も巻き込んだ支援が必要であることも話されました。

玉懸さんは、行政でもNPOでも支援の目的は変わらなく、目的に向かって民間の良さも取り入れながら実施するのが良いのではという意見が出されました。

両川さんは、雪のある生活での家事労働、風土や伝承の良さに気付き、東北ならではの宝を活かしていくのが良いのではと話されました。

最後に阿部さんは、親子の笑顔を大切に同じ目線に立って子育て支援に取り組むことや、北東北の素晴らしいひろばを発信できる機会となって良かったと締めくくり、岩手開催が閉幕しました。



阿部さん